長岡市長記者会見要旨

日　時：令和８年３月２６日（木）午後１時００分から
会　場：アオーレ長岡　東棟４階　大会議室

【 会見項目１：２０２６長岡まつり大花火大会について 】

〈市長〉
8 月 2 日、3 日に長岡まつり大花火大会を開催します。今年は市制施行 120 周年。大正 15 年に正三尺玉の打ち上げが成功してから 100 年目の節目の年となります。プログラムも工夫して、さらに楽しみ、感動していただける大会にしたいと考えています。
現在も悲惨な戦争、紛争が世界で続いています。この長岡まつり大花火大会に込められた、慰霊、復興、世界平和の祈りという想いをしっかりと発信していきたいと考えています。ご来場いただく方と、平和への想いをひとつにできたらありがたいと思っています。

＜長岡花火財団理事長＞
今年も、安全安心を第一に、全ての人に喜んでいただける花火大会を運営していきます。
今年は正三尺玉の打ち上げ成功から 100 年の節目となっています。また、ナイアガラも復活します。ポスターは 10 年ぶりに正三尺玉を使ったデザインとなっています。
花火の規模は、昨年から大型花火を 1 台増やし、各日 40 台を予定しています。終了時間を 15 分延ばすことで運営上のゆとりと安全確保に繋げます。また、フェニックス花火の打ち上げ時間を 20 時 15 分から 20 時 45 分に変更します。
観覧会場は、1 万人分の席を増加し、1 日当たり 18 万人分の席を用意しました。障がい者席を今年から両岸で 80 席分確保します。また、高校生応援席を各日両岸に 500 席設置します。将来の長岡を担う若者に観覧会場で見てもらいたいという趣旨で、新たに追加しました。
次に花火大会運営上の各種対策です。来場者の皆さんと共に長岡花火を守っていく「NAGAOKA HANABI GOOD ACTION PROJECT」を実施します。交通対策については、チケットを購入された方のみ公式駐車場の申し込みを可能とし、レール＆ライドの駐車場を、柏崎駅周辺に確保しました。
チケットは、今年も市民先行販売を実施します。価格は昨年と同額とし、転売対策としてチケットを記名式とします。一部の席で NFT 技術を使ったチケットを、実験的に導入します。取引履歴が管理できること、直前までリセールができる特徴があります。フリマサイトの転売防止などの依頼や、悪質な出品についての捜査機関との連携による取り組みは継続します。

＜記者＞
　１万人増に踏み切ったお考えをいただけますでしょうか。

＜長岡花火財団理事長＞
　多くの方からご覧いただきたいので、少しでも席数を増やしたいという思いがございました。安全対策を検証し、トイレの位置等を工夫することで、席の増加をしたところです。

＜幹事社＞
　トイレなどが減ってしまうなどもあるのでしょうか。

＜長岡花火財団理事長＞
　数は減らしていません。配置を見直し右岸、左岸とも概ね３ヶ所程度に集約しました。

＜記者＞
　３年ぶりにナイアガラが復活するということですが、復活した経緯をお聞かせください。

＜長岡花火財団理事長＞
　長生橋の修繕工事をしている県と協議を行い、ナイアガラを仕掛ける範囲の工事を先に終わらせて、花火大会の時期にはその区間を開放していただけることになりました。

＜記者＞
　仕掛ける区間は、長生橋のどのあたりのことを指していますか。

＜長岡花火財団事務局長＞
　主に水が流れている信濃川の上を中心に考えています。

＜記者＞
　NFT チケットを試験的に導入したことによって、具体的にどのくらい転売が減るのか、期待されていることをお聞かせいただければと思います。

＜長岡花火財団理事長＞
　NFT チケットは取引履歴が残るので、誰に販売したか明らかになります。今年の取り組みは、転売対策として有効か実証する位置づけです。

　＜記者＞
　NFT チケットについて、どこの事業者と連携されるのですか。

＜長岡花火財団理事長＞
　ネット販売について、楽天グループにお願いしているので、楽天グループが持っている技術を実験してみようということです。

＜記者＞
　入場する際に、紙のチケットを見せるのではなく、スマホの画面を見せるのでしょうか。

＜長岡花火財団理事長＞
　電子チケットはそうですが、試験運用であることから紙のチケットも併用します。

＜記者＞
　プログラム的に新しいチャレンジなどがあれば伺えればと思います。

＜長岡花火財団理事長＞
　ドローンについては、協議中です。その他、長岡技術科学大学のバイオ技術を使った手洗いの取り組みや、新しい技術的な提案実験などは、積極的に取り組みたいと思っています。

＜記者＞
　ナイアガラ、正三尺玉の同時打ち上げは、今までもセットで行っていたのでしょうか。

＜長岡花火財団理事長＞
　従来、ナイアガラと正三尺玉はセットでやっていたものです。

＜記者＞
　NFT チケットについてお伺いします。一般販売のベンチ式マス席のみに導入するということですが、この席を選ばれた理由と、何席か伺います。

＜長岡花火財団事務局長＞
　ベンチ式マス席は 72 マスで、ひとマスの定員が 8 人なので 600 人くらいになります。試験的導入ですから、予測もできないようなことが起きても、すぐ対応できるようにしました。

＜記者＞
　転売対策としてポスターで「転売ダメですよ」としていた時期があったかと思いますが、今年はそういったポスターは制作される予定はございますか。

＜長岡花火財団事務局長＞

昨年取り組みをさせていただいた、モラル向上キャンペーンに代わるものとして、「NAGAOKA HANABI GOOD ACTION PROJECT」に、今年から取り組んでいきたいと思います。

＜記者＞
来年も再来年も、同じ名前でやっていかれるということですか。

＜長岡花火財団理事長＞
プロジェクトとしてはそういう名称です。

＜記者＞
ポスターに正三尺玉が起用されたのは、正三尺玉の打ち上げ 100 年という節目だと思いますが、キャッチコピー「ひらけ未来」にどのような思いが込められているか紹介ください。

＜長岡花火財団理事長＞
来年度は長岡市制 120 周年、米百俵プレイス ミライエ長岡が全館オープン、長岡市が新たな総合計画の初年度として動き出す年でもありますので、大きく開く正三尺玉と、未来を合わせたキャッチコピー、フレーズでポスターを作成したところであります。

＜記者＞
転売問題ですが、先般も東京地裁に対して出品者情報開示の申し立てをされたと思います。仮にまた転売などの行為が発生した場合、どういった姿勢で臨まれるのかお伺いします。

＜長岡花火財団理事長＞
大手フリマサイトについては、掲載しないという取り組みをしていただけます。また、いくつかのチケット販売サイトに情報開示を求めていますが、承諾していただけていない状況で、裁判所を通じた情報開示請求も当財団のリセールサイトを運営している会社と一緒に実施しています。捜査機関との連携も含めて厳しい対応をしていきたいと考えています。

【 会見項目２：１１／１４ 米百俵プレイス　ミライエ長岡　フルオープン
産業ビジネス交流館として産学官金の機能が終結！ 】

＜市長＞
米百俵プレイス ミライエ長岡のフルオープンに向けて、「長岡産業ビジネス交流館」の内容、入居者が固まりましたので発表いたします。
産業ビジネス交流館には、商工会議所や商工中金、県信用協会、市の商工部、観光・交流

部、観光コンベンション協会など長岡の産業を活性化する役割を担っている機関が入ります。既に完成している西館の機能と一体的になって、長岡の産業振興の拠点になります。米百俵プレイスには、産業だけではなく、市民の皆さんが集って、交流して、活動する、いろいろなテーマに取り組むスペースもあります。国際交流センター「地球広場」や、西館と東館を繋ぐ屋外スペース「トオリニワ」、1 階の「ミライエホール」といった空間です。それぞれのテーマで多くの皆さんが集まり、多くの関係団体、市民の皆さんと交流していただく中で、いろいろな動きを出していただく空間になります。

＜長岡商工会議所会頭＞

再開発にあたり、商工会議所として、産業ビジネス交流館という構想を長岡市に提示させていただきました。我々の考える交流館は、1 つは、ワンストップで創業・起業したいと考えたときに、その人たちを支援できる場所にしたい。もう 1 つは、会員企業が集まって産官学金の交流を図りながら、イノベーションの機運を醸成する場所にしたいということです。

会議所は東館に入居します。東館には、長岡市や日本政策金融公庫、観光コンベンション協会、新潟県起業支援センター、新潟県信用保証協会などが入居する予定になっており、これらの方々と共に長岡市のイノベーション構想と、商工会議所のビジネス交流館構想を推進していきたい。それによって、まちなかの活性化、地域の経済環境を活性化していきたいと考えています。

この中心市街地に、いろいろな世代の人、学生、ビジネスマンも集まり、西館、東館が交流しながら新しいことが生まれ、その中でいろいろな分野へ挑戦をする人たち、場所ができてくるといいなと考えています。何よりも、ここに来ると何かあるかもしれない、何か面白いことがあるかもしれない、という期待の持てる場所、興味を持って集まれるような場所、そのようにして商工会議所としても産業の発展に貢献していきたいと考えています。

＜記者＞

ミライエ長岡フルオープンで、10 年来の行政主導の市街地再開発が一段落することになると思います。街中の活性化や、産業振興、イノベーションなどの効果、こういった機能を生かしての取り組みの方向性について、教えていただけますか。

＜市長＞

再開発事業という観点では、市が行う公共的な投資は、最後になると思います。ただ、民間の再開発事業は、公共性、公益性があれば支援をしながら、事業がスムーズにいくよう頑張っていきたいと思います。

10 年間を振り返ってですが、例えば人工知能を活用した新しい産業など、社会の仕組みを作っていく様々な動きを起こすためには、多くの意欲のある人たちが集まる場所が必要で、集まる場所をまず作るという意味で、アオーレ長岡は多くの皆さんに集まっていただい

ています。ミライエ長岡も、産業関係の皆さん、起業・創業を目指す若者、地域のことを真剣に考えている皆さん、子どもたちが新しい技術や知識を持っている人たちに会いたいといった多様な欲求を叶える場所として、多くの人が集まる場になります。産業ビジネス交流館ができることによって、そこに行けば自分の求めるものが何かあるのではないか、そういった期待を常に持って来ていただく場が、この 10 年間で形になってきたのかなと思います。

＜記者＞
　アオーレも米百俵プレイスも若者からお年寄りまで姿がよく見られますし、いろいろなイベントがあり、人の交流が生まれていると思いますが、人流や市民活動、商店街への還元なども含めて、まちなか活性化という部分については、効果を感じるものはありますか。

＜市長＞
　まちなかの活性化については、郊外に商業の中心が移り、街中には買い物する場が無い、商店の売れ行きが落ちる。それを何とかしてほしいという動機で、やってきました。ただ、郊外店にお客様が行くことは変えられることではなく、長岡は市役所を持ってきて、公共サービスの展開によって人を増やしていこうとなったわけです。
　米百俵プレイス、産業ビジネス交流館は、産業振興の拠点としての機能を育てることで、周りの商店街、飲食街、いろいろな商売も発展していけるのではないかと思っています。

【 会見項目３：栃尾地域の新たな防災拠点へ　機能強化した栃尾消防署が業務開始！ 】

＜市長＞
　栃尾消防署が、4 月 1 日から新庁舎で業務を開始します。防災ヘリポートと隣接していますので、救急体制の機能強化が図られるということが第 1 に挙げられます。
　個室の仮眠室を配置したり、降雪期にも訓練ができる全天候型の訓練スペースを整備しするなど、多面的、実践的な訓練が可能となる庁舎となっています。女性職員の専用スペースを整備し、4 月の異動で女性職員 2 名を、初めて栃尾に配置する予定です。
　これまで以上に地域の方々との連携、協力をしながら、生まれ変わった消防署を栃尾地域の安全、安心の防災拠点として、親しんで頼りにしていただければと思っています。

＜記者＞
　配置人員 37 人、配置車両 8 台という規模感、消防から見て栃尾の地域性を踏まえて、現在の体制とか、どのようなことに取り組んでいるかご説明ください。

＜消防長＞

栃尾地域の面積や、人口、過去の災害、火災や救急の発生状況などを基に、この人数・車両数になっています。現在と同じ職員数、車両の配置になっています。

山の中の救助事案が多い土地で、新庁舎では、冬でも使える全天候型の訓練設備も設えましたので、山岳救助の訓練、特に冬場の雪山での救助を想定した訓練もできます。山間地ということでヘリポートを活用したドクターヘリの離着陸が鍵を握ると思うのですが、消防署の隣にあるので、救急も格段に向上すると思っています。

【 会見項目４：１，５００以上の店舗で利用できます！
「暮らしと地域の応援商品券」を４月初旬から送付　】

＜市長＞

4 月初旬から 4 月末までに、市民の皆様お一人ごとに商品券 1 万円分をお届けします。10 月 20 日まで利用でき、市内で現在 1,517 店舗が登録されています。食料品、飲食、商店街の店舗、コンビニエンスストアやドラッグストア、ガソリンスタンド、大手チェーンストアなどにも参加いただいていますので、様々な場面でご活用いただきたいと思っています。キッチンカーや、移動販売のお店にも登録していただいています。

商品券の印刷や配送も含めて、極力市内の企業に委託してありますので、全体として長岡市内の消費拡大とともに、産業支援に繋がっているのではないかなと思っています。

＜記者＞

参加店舗は、1,517 店舗ということでしたが、申し込みの締め切りは設定していますか。

＜産業支援課長＞

10 月 20 日まで申し込みを受け付けています。随時受け付けており、その都度、共通商品券組合のホームページで、新たに追加しているという状況です。

＜記者＞

ホームページ以外にも、参加店のバナーや、店頭にのぼりが出たりすることはありますか。

＜産業支援課長＞

掲示物を各店舗に表示していただく予定です。約 1,500 店舗の参加店、2 月 27 日まで受け付けた分を、4 月に配布させていただく商品券に同封してお送りいたします。

＜記者＞

（掲示物を）見て使う人もいると思いますが、そういう人に向けたポスターになりますか。

＜産業支援課長＞
　店頭に貼られているポスターになります。商品券が使えるお店という目印になります。

＜記者＞
　市民の暮らしに対する物価高の状況について、どのように受けとめていますか。

＜市長＞
　いろいろなお店の値段が、去年ものすごく上がったという感じを持ったわけですが、家計に占める負担感は全然減っていないのは間違いないと思います。ガソリンの補助金やナフサの在庫が無くなり、食料品やガソリンだけではなく、いろいろなところに影響が出てきたときにどうなるのか、市民の皆様の生活状況の変化を、見極めていきたいと思っています。

【その他の質問】

　＜記者＞
　第四北越フィナンシャルグループと群馬銀行が進めている経営統合の中で、本店が東京に行くわけですけれども、今起きている金融再編についての地域経済との絡みで、感じているところがあれば教えてください。

＜市長＞
　金融機関も、いろいろな課題を抱えている中で、経営規模を拡大していく、営業エリアを拡大していくという企業努力の現れだと思います。融資等で、地元企業に深く結びついている第四北越銀行の存在感が、薄くなることは絶対に認めるわけにはいかない、頭取からも、長岡における第四北越銀行の存在感が薄れることはない、という言葉をいただいております。今まで以上に連携を密にしていく努力も、行政としてもやっていきたいと思っています。

＜記者＞
　新潟市で多目的アリーナの準備が進んでいます。長岡市でもバスケットボールチームがある中で懸念や、新潟市とコミュニケーションを取ることを考えているか伺います。

＜市長＞
　アリーナ建設の構想が発表されたばかりですので、具体的にどういうものになるのか、スケジュールも含めて一切情報をもらっていません。新潟県全体のスポーツ振興や、プロスポーツを使って賑わいをどのように作っていくかという、大きな構想の中に長岡もしっかりと入っていくことは変わりません。